

## おばけのバーバパパ

アネット=チゾンとタラス=テイラー 作  
やましたはるお 訳

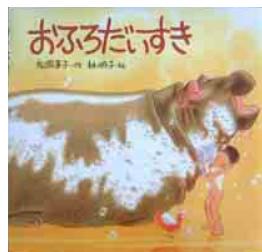


偕成社 1972年 1000円

小さな男の子、フランスの庭で生まれたバーバパパは、おおきすぎて、フランスのうちにも、動物園にもおいてもらえません。さみしくて、とうとう泣き出しちゃったとき、街で火事が起こり…。階段状になつて人々を助けたり、ボートの形になつて子どもたちを乗せてくれたり、自由自在に姿を変えられるバーバパパの様子が子どもたちをひきつけます。シリーズは「バーバパパうみにでる」などがあります。

## おふろだいすき

松岡享子 作  
林明子 絵



福音館書店 1982年 1200円

ぼくが、おもちゃのアヒルのプッカをつれておふろに入ると、大きなかめ、ペンギンにオットセイと、海の動物たちが次々とあらわれます。ぼくは、かばの体を洗ったり、くじらのシャワーを浴びたり、楽しい時間を過ごします。やわらかい黄色を基調とした絵は、本当におふろに入っているような、あたたかな心地にさせてくれます。また、表情豊かな動物たちが、この不思議なおふろの時間を自然なものにしています。

## おやすみなさいおつきさま

マーガレット・ワイズ・ブラウン 作  
クレメント・ハード 絵

せたていじ 訳  
評論社 1979年 1000円



ベッドに入った子ウサギは、眠りにつく前のひととき、部屋中のこまごまとしたものひとつひとつに、「おやすみ あかりさん」「おやすみ あかいふうせん」と声をかけていきます。明るい赤と緑で描かれた部屋は、徐々に暗くなつていき、反対に、夜空は鮮やかさを増していきます。ゆつたりとした美しい言葉が、眠りに着く前の静けさと安らぎを感じさせます。